

研究所探訪

外国語視聴覚教育センター

所長 山口 均



正式名称は「外国語視聴覚教育センター」ですが、発足以来40年以上たちながら、そう呼ばれるのは実は公式書類の中だけで、普通は(もっと親しみやすく)「LL」と呼ばれています。この響きのよい重ね言葉は、Language Laboratoryの略称です。ラボラトリというのは、特別な教育設備が備わった教室というような意味で、ここでは語学教育に特化したソフトウェアを搭載したコンピュータが二つの教室に学生用として合計96台設置されています。

外国語教育の理想は、少人数の同程度のレベルの受講生を対象として行うことですが、LLでは、情報機器を利用して、いわばバーチャルな少人数教育、個別学習空間を作り出しています。導入されているソフトウェアを使うと、例えば映画のDVDの一場面を取り込んで、聞き取り練習をしたり(聞き取りの速度は受講生それぞれのレベルに合わせて調整可能)、自分の発声とネイティブの発声とを聞き比べてみたりすることができます。

実在するアメリカ東部の名門女子大学を舞台にした映画『モナリザ・スマイル』Mona Lisa Smile (2003)を使った授業を例にとると、私たちの教室で学ぶ受講生は、まるで自分が個性豊かな映画の登場人物の一人になったか、あるいは、その大学のキャンパスに立っているかのような感覚で学習することができます(ちなみに映画の舞台となったWellesley Collegeは現在大統領選挙を戦っているHillary Clintonさんの母校です)。

昨年受講したある学生の方の「ここで授業を受けていると、90分の授業時間がすぐに過ぎてしまう」という感想が大変印象的で、所長として何よりも嬉しかったです。

LLと似たような設備を備えた教室は他の若干の学部にもありますが、私たちのLLの特徴は、英語だけでなく、ドイツ語、フランス語、中国語、そして韓国語が学べるということです。また、ここで開講される授業を取ってなくても、e-learning教材のライセンスを含めて、すべての学部の人たちに開放されています。それが教養部付属のセンターとしての強みです。

LLが、愛知学院大学の語学教育の中心地として一層輝く空間となるように環境を整えればと願っています。

